

ことわざ
新聞入り



ちびまる子ちゃんの

ことわざ 教室

キャラクター原作／
さくらももこ

監修／
島村直己
国立国語研究所室長

花より団子



満点ゲットシリーズ

ことわざ
新聞入り

ちびまる子ちゃんの

ことわざ 教室

キャラクター原作／
さくらももこ

監修／島村直己
国立国語研究所室長



泣きつ面に蜂



満点ゲットシリーズ

ちびまる子ちゃんのことわざ教室

2000年10月25日 第1刷発行

2011年6月6日 第37刷発行

- キャラクター原作／さくらももこ
 - 監修／島村直己
 - 指導／間中孝貴(東京学芸大学附属世田谷小学校 元副校長)
 - ちびまる子ちゃんまんが／小泉晃子、倉沢美紀
 - まんが原案／フォルスタッフ(今村恵子)
 - 編集協力／(株)冬陽社(岡村洋、石田優子、小島伸子)
 - カバー・表紙イラスト／小泉晃子
 - 本文カット／堀井徹、つなん京助、熊丸栄一郎
 - カバー・デザイン／ZOO(曾根陽子)
 - 本文デザイン／クリエイティブ・アート・テクニクス(市原真佐子)
- 新藤恵璃子
- 写植／昭和ブライト写植部

発行人 太田富雄

発行所 株式会社 集英社

〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号

電話 東京 03-3230-6024(編集)

03-3230-6393(販売)

03-3230-6080(読者係)

印刷製本所 大日本印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して小社読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替え致します。但し、古書店で購入されたものについてはお取り替えできません。

本書の一部または全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。また、業者など、読者本人以外による本書のデジタル化は、いかなる場合でも一切認められませんのでご注意下さい。

©Sakura Production 2000

©SHUEISHA 2000

Printed in Japan

もくじ

あ

◇この本に出てくる人たち	2
◇みんなもことわざ博士になろう	10
頭隠して尻隠さず	12
後は野となれ山となれ	13
蛇蜂とらず	14
雨垂れ石をうかつ	15
雨降つて地固まる	16
案ずるより産むが易し	17
石の上にも三年	18
石橋をたたいて渡る	19
医者の不養生	20

まる子も、ことわざを
おぼえてかしこい子に
なるんじやよ



急がば回れ	21
一寸の虫にも五分の魂	22
犬も歩けば棒に当たる	23
命あつての物種	24
井の中の蛙大海を知らず	25
魚心あれば水心	26
嘘も方便	27
うどの大木	28
鵜のまねをする烏	29
馬の耳に念仏	30
海老で鯛を釣る	31

か

◆ことわざ新聞 春

縁の下 えんした の力持 ちからもち ち	36
負 お うた子 こ に教 おし えられる	37
鬼 おに に金棒 かなぼう	38
鬼 おに の目 め にも涙 なみだ	39
帯 おび に短 みじか したすきに長 なが し	40
おぼれる者 もの はわらをもつかむ	41
親 おや の心子 こころこ 知らず	42
飼 か い犬 いぬ に手 て をかまれる	43
蛙 かえる の面 つら に水 みず	44
稼 かせ ぐに追 お いつく貧乏 びんぼう なし	45
勝 か つて兜 かぶと の緒 お を締めよ	46
河童 かわなぐ の川流 かわなが れ	47
壁 かべ に耳 みみ あり障子 しょうじ に目 め あり	48
果報 かほう は寝 ね て待 まち て	49
亀 かめ の甲 こう より年 とし の劫 こう	50
枯 か れ木 き も山 やま のにぎわい	51

かわい子 こ には旅 たび をさせよ	52
かわいさ余 あま つて憎 にく ま百倍 ひゃくばい	53
聞 き いて極楽 ごくらく 見て地獄 じごく	54
聞 き くは一時 いつとき の恥聞 はじき かぬは一生 いっしやう の恥 はじ	55
早口 はやぐち ことば新聞 しんぶん	56
◆回文新聞 かいぶんしんぶん	58
雉 きじ も鳴 な かずばうたれまい	60
窮 きう すれば通 つう ず	61
腐 くさ つても鯛 たい	62
口 くち は禍 わざい の門 かど	63
苦 くる しいときの神頼 かみたの み	64
君子 くんし 危 あや うきに近寄 ちかよ らず	65
芸 げい は身 み を助 たす ける	66
怪我 けが の功名 こうみやう	67
後悔 こうかい 先に立 た たず	68
孝行 こうこう のしたい時分 じぶん に親 おや はなし	69
弘法 こうぼう にも筆 ふで の誤り あやま	70

さ

転ばぬ先の杖	71
紺屋の白袴	72
猿も木から落ちる	73
触らぬ神に祟りなし	74
山椒は小粒でもぴりりと辛い	75
三人寄れば文殊の知恵	76
鹿をおう者は山を見ず	77
親しき仲にも礼儀あり	78
釈迦に説法	79
◆ことわざ新聞 No.2 夏	80
朱に交われば赤くなる	84
十人十色	85
知らぬが仏	86
好きこそ物の上手なれ	87
過ぎたるはなお及ばざるが如し	88
雀百まで踊り忘れず	89
急いては事を仕損じる	90

た

背に腹はかえられぬ	91
船頭多くして船山に上る	92
善は急げ	93
千里の道も一歩から	94
袖すりあうも多生の縁	95
備えあれば憂いなし	96
損して得取る	97
大山鳴動して鼠一匹	98
大は小を兼ねる	99
宝の持ち腐れ	100
立つ鳥跡を濁さず	101
蓼食う虫も好き好き	102
棚から牡丹餅	103
◆絵文字新聞	104
◆絵かきうた新聞	106
旅は道連れ世は情け	108
短気は損気	109



忠言耳に逆らう……………110
 提灯に釣鐘……………111
 塵も積もれば山となる……………112
 月とすつぽん……………113
 月夜に提灯……………114
 釣り落とした魚は大きい……………115
 鶴の一声……………116
 出る杭は打たれる……………117
 灯台下暗し……………118

な

遠くの親類より近くの他人……………119
 時は金なり……………120
 所変われば品変わる……………121
 隣の花は赤い……………122
 とらぬ狸の皮算用……………123
 虎の威を借る狐……………124
 泥棒をとらえて縄をなう……………125
 団栗の背比べ……………126
 飛んで火に入る夏の虫……………127
 ◆ことわざ新聞 No.3 秋……………128
 ない袖は振れぬ……………132
 長い物には巻かれろ……………133
 泣きつ面に蜂……………134
 なくて七癖……………135
 情けは人のためならず……………136
 七転び八起き……………137
 怠け者の節句働き……………138

は

花より団子	話し上手は聞き上手	いろはカルタ新聞 2	いろはカルタ新聞 1	暖簾に腕押し	喉もと過ぎれば熱さを忘れる	能ある鷹は爪を隠す	猫に小判	猫に鯉節	濡れぬ先の傘	濡れ手で粟	糠に釘	二兎を追う者は一兎をも得ず	二度あることは三度ある	憎まれっ子世にはばかる	二階から目葉(天井から目葉)	習うより慣れろ
157	156	154	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139

ま

負けるが勝ち	まかぬ種は生えぬ	仏の顔も三度	仏つくつて魂入れず	蛇に見こまれた蛙	下手の横好き	下手な鉄砲も数うては当たる	豚に真珠	瓢箪から駒(が出る)	百聞は一見にしかず	火のない所に煙は立たぬ	火に油を注ぐ	人のふり見てわがふり直せ	人の噂も七十五日	必要は発明の母	針の穴から天をのぞく	早起きは三文の得
174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158

や

待てば海路の日和あり	175
◆ことわざ新聞 No.4 冬	176
ミイラ取りがミイラになる	180
身から出た錆	181
三つ子の魂百まで	182
昔取った杵柄	183
無理が通れば道理引こむ	184
目から鼻へ抜ける	185
目の上のたんこぶ	186
餅は餅屋	187
物も言いようで角が立つ	188
門前の小僧習わぬ経を読む	189
焼け石に水	190
安物買いの銭失い	191
柳の下のだじよう	192
油断大敵	193
弱り目に祟り目	194

わ

ら

楽あれば苦あり	195
良薬は口に苦し	196
論語読みの論語知らず	197
論より証拠	198
禍を転じて福となす	199
渡る世間に鬼はない	200
笑う門には福来たる	201
◆なぞなぞ新聞	202
◆だじやれ新聞	204

*この本には、ことわざの他に故事成語や慣用語も一部、のっています。



満点ゲットシリーズ

ことわざ
新聞入り

ちびまる子ちゃんの

ことわざ 教室

キャラクター原作／
さくらももこ

監修／島村直己
国立国語研究所室長



泣きつ面に蜂

ほん この本に でてくる ひと 人たち



お田さん
まる子のせわを
やく。



父ヒロシ
のんき者。



おじいちゃん
(友蔵)

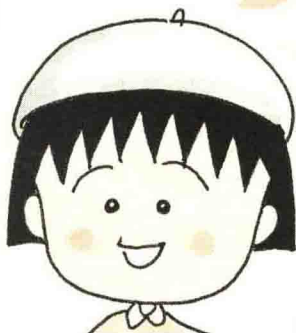
まる子のいち
ばんの味方で
なかよし。



お姉ちゃん
まる子にめいわく
をかけられる
ことが多い。



おばあちゃん
友蔵のつま。



まる子

おっちょこちよいでなまけ者。



たまちゃん
まる子の親友。



やまだ
山田
クラスのこまった男子。



とし子ちゃん
まる子と
仲良し。



やまね
山根くん
胃腸が弱い。



ふじ
フー太郎
「フー」と
いうのが
口ぐせ。



ふじき
藤木くん



ながさき
永沢くん



こうちょうせんせい
校長先生
集会での話が長い。



うちわ
戸川先生

まる子の
クラスの担任。
やさしくて
人気者。



こすぎ
小杉くん

クラスの男子。



きくち
関口くん



にしやま
長山くん

とてもやさしい男の子。



冬田さん
クラスの女子。
大野くんを好き。



かよちゃん
杉山くんを好き。



杉山くん 大野くん
ふたりは親友。



城ヶ崎さん
美人なので
みぎわさんに
意地悪されてる。



笹山さん
藤木に
好かれている。



前田さん
そうじ係。
カッとする、
泣く。



野口さん
お笑い好きな
くらい少女。



花輪くん
大金持ちのおすこ。



みぎわさん
花輪クンにお熱。



はまじ
クラス
の男子。



たかしくん
クラスの男子。
犬を飼っている。



川田さん
佐々木のじいさんの
友だち。



ヒデじい
花輪クンち
の運転手。
みんなから
好かれて
いる。



みどりちゃん
おじいちゃんの
知り合いの孫娘。
藤木を好き。



丸尾君
「ズバリ」が
口ぐせ。



野口さんの
おじいちゃん
お笑い好き。



30年間
毎に木を
植えてづ
けている。
佐々木のじいさん



根岸



小山くん
お姉ちゃんのクラスの男子。



よし子さん
お姉ちゃんの親友。
小山くんを好き。



みまつやのおやじ



長山くんの両親



丸尾君の
お母さん



小杉くんの
お母さん



たまちゃんの
両親



もくじ

あ

◇この本に出てくる人たち	2
◇みんなもことわざ博士になろう	10
頭隠して尻隠さず	12
後は野となれ山となれ	13
蛇蜂とらず	14
雨垂れ石をうかつ	15
雨降つて地固まる	16
案ずるより産むが易し	17
石の上にも三年	18
石橋をたたいて渡る	19
医者の不養生	20

まる子も、ことわざを
おぼえてかしこい子に
なるんじゃよ

急がば回れ	21
一寸の虫にも五分の魂	22
犬も歩けば棒に当たる	23
命あつての物種	24
井の中の蛙大海を知らず	25
魚心あれば水心	26
嘘も方便	27
うどの大木	28
鶉のまねをする鳥	29
馬の耳に念仏	30
海老で鯛を釣る	31



か

◆ことわざ新聞 春

縁の下 ^{えんした} の力 ^{ちから} 持ち	32
負 ^お うた子 ^こ に教 ^{おし} えられる	36
鬼 ^{おに} に金棒 ^{かなぼう}	37
鬼 ^{おに} の目 ^め にも涙 ^{なみだ}	38
帯 ^{おび} に短 ^{みか} したすきに長 ^{なが} し	39
おぼれる者 ^{もの} はわらをもつかむ	40
親 ^{おや} の心子 ^{こころこし} 知らず	41
飼 ^か い犬 ^{いぬ} に手 ^て をかまれる	42
蛙 ^{かえる} の面 ^{つら} に水 ^{みず}	43
稼 ^{かせ} ぐに追 ^お いつく貧乏 ^{びんぼう} なし	44
勝 ^か つて兜 ^{かぶと} の緒 ^お を締めよ	45
河童 ^{かっぱ} の川 ^{かわ} 流れ	46
壁 ^{かべ} に耳 ^{みみ} あり障子 ^{しょうじ} に目 ^め あり	47
果報 ^{かほう} は寝 ^ね て待 ^{まち} て	48
亀 ^{かめ} の甲 ^{こう} より年 ^{とし} の劫 ^{こう}	49
枯 ^か れ木 ^き も山 ^{やま} のにぎわい	50

かわい子 ^こ には旅 ^{たび} をさせよ	51
かわいさ余 ^{あま} つて憎 ^{にく} き百倍 ^{ひゃくばい}	52
聞 ^き いて極楽 ^{ごくらく} 見て地獄 ^{じごく}	53
聞 ^き くは一時 ^{いつとき} の恥聞 ^{はじき} かぬは一生 ^{いっしょう} の恥 ^{はじ}	54
早口 ^{はやぐち} ことは新聞 ^{しんぶん}	55
回文新聞 ^{かいぶんしんぶん}	56
雉 ^{きじ} も鳴 ^な かずばうたれまい	57
窮 ^{きう} すれば通 ^{つう} ず	58
腐 ^{くさ} つても鯛 ^{たい}	59
口 ^{くち} は禍 ^{わざわい} の門 ^{かど}	60
苦 ^{くる} しいとき ^{かみだ} の神頼 ^{かみだ} み	61
君 ^{くん} 子 ^し 危 ^{あや} うきに近 ^{ちか} 寄 ^よ らず	62
芸 ^{げい} は身 ^み を助 ^{たす} ける	63
怪我 ^{けが} の功名 ^{こうなう}	64
後悔 ^{こうかい} 先に立 ^た たず	65
孝行 ^{こうこう} のしたい時分 ^{じぶん} に親 ^{おや} はなし	66
弘法 ^{こうぼう} にも筆 ^{ふで} の誤 ^{あやま} り	67

さ

転ばぬ先の杖……………	71
紺屋の白袴……………	72
猿も木から落ちる……………	73
触らぬ神に祟りなし……………	74
山椒は小粒でもぴりりと辛い……………	75
三人寄れば文殊の知恵……………	76
鹿をおう者は山を見ず……………	77
親しき仲にも礼儀あり……………	78
釈迦に説法……………	79
◆ことわざ新聞 No.2 夏……………	80
朱に交われれば赤くなる……………	84
十人十色……………	85
知らぬが仏……………	86
好きこそ物の上手なれ……………	87
過ぎたるはなお及ばざるが如し……………	88
雀百まで踊り忘れず……………	89
急いては事を仕損じる……………	90

た

背に腹はかえられぬ……………	91
船頭多くして船山に上る……………	92
善は急げ……………	93
千里の道も一歩から……………	94
袖すりあうも多生の縁……………	95
備えあれば憂いなし……………	96
損して得取る……………	97
大山鳴動して鼠一匹……………	98
大は小を兼ねる……………	99
宝の持ち腐れ……………	100
立つ鳥跡を濁さず……………	101
蓼食う虫も好き好き……………	102
棚から牡丹餅……………	103
◆絵文字新聞……………	104
◆絵かきうた新聞……………	106
旅は道連れ世は情け……………	108
短気は損気……………	109



忠言耳に逆らう……………110
 提灯に釣鐘……………111
 塵も積もれば山となる……………112
 月とすつぽん……………113
 月夜に提灯……………114
 釣り落とした魚は大きい……………115
 鶴の一声……………116
 出る杭は打たれる……………117
 灯台下暗し……………118

な

遠くの親類より近くの他人……………119
 時は金なり……………120
 所変われば品変わる……………121
 隣の花は赤い……………122
 とらぬ狸の皮算用……………123
 虎の威を借る狐……………124
 泥棒をどらえて縄をなう……………125
 団栗の背比べ……………126
 飛んで火に入る夏の虫……………127

◆ことわざ新聞No.3 秋

ない袖は振れぬ……………132
 長い物には巻かれろ……………133
 泣きつ面に蜂……………134
 なくて七癖……………135
 情けは人のためならず……………136
 七転び八起き……………137
 怠け者の節句働き……………138

は

花より団子……………	157
話し上手は聞き上手……………	156
◆いろはカルタ新聞 2……………	154
◆いろはカルタ新聞 1……………	152
暖簾に腕押し……………	151
喉もと過ぎれば熱さを忘れる……………	150
能ある鷹は爪を隠す……………	149
猫に小判……………	148
猫に鯉節……………	147
濡れぬ先の傘……………	146
濡れ手で粟……………	145
糠に釘……………	144
二兎を追う者は一兎をも得ず……………	143
二度あることは三度ある……………	142
憎まれっ子世にはばかる……………	141
二階から目薬(天井から目薬)……………	140
習うより慣れろ……………	139

ま

負けろが勝ち……………	174
まかぬ種は生えぬ……………	173
仏の顔も三度……………	172
仏つくつて魂入れず……………	171
蛇に見こまれた蛙……………	170
下手の横好き……………	169
下手な鉄砲も数うてば当たる……………	168
豚に真珠……………	167
瓢箪から駒(が出る)……………	166
百聞は一見にしかず……………	165
火のない所に煙は立たぬ……………	164
火に油を注ぐ……………	163
人のふり見てわがふり直せ……………	162
人の噂も七十五日……………	161
必要は発明の母……………	160
針の穴から天をのぞく……………	159
早起きは三文の得……………	158